

**私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。**

**「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況**

事業所名	生活リハビリセンター糸			第三者評価受審年度	令和元年度
項目	評価結果に基づく現状分析 ( 令和元年度)	改善計画 ( 令和元年度末時点)	実施状況 ( 令和元年度末時点)	実施状況 年度末時点)	
不適切ケア防止に向けた取り組みの更なる充実化について	不適切ケア防止に向けては虐待防止法に沿った対応を図るために、「職員の行動指針」、「虐待が起きた場合の対応マニュアル」、「障害者虐待防止対応の手引き」の作成や見直し、チェックリストによる言動や行動等を振り返っているが、具体的な不適切ケア防止に向けた取り組みを計画的に行う。	法人職員全体会議などで他事業所職員と虐待防止の観点からディスカッションを行い、客観的な視野を個々職員が持てるよう計画、実施する。	法人職員全体会議で得た、知識や客観的な視野で事業所会議において、利用していただいている方のケアのあり方を検討することで、職員間での意識の統一が図られるようになった。		
リスクマネジメントに向けた取り組みについて	事業所内外での事故発生は、法人全体での重大なリスクとして捉え、ヒヤリハットを蓄積し事故防止に繋げているが、より職員間での共有やヒヤリハットの提出を高めることでトラブルや事故防止につながるため計画的に取り組む。	ヒヤリハットの提出を高めるため、事業所会議において検証する時間を作り1ヶ月に起きた物事を職員で共有し、どういう事例がヒヤリハットにあたるのかを検討して業務に従事する。	ヒヤリハットの提出が高まり、危険事例の共有化に取り組んでいることで事故防止につながる事例が増え一定の成果を出している。		
利用者の意向や要望に沿った日中活動整備について	今年度事業所では、利用者へのプログラム内容の安定化、アセスメントの強化、質、サービスの向上を目指し丁寧な支援を行うこと等を事業目標に掲げ運営を行っている。	事業目標を職員間で共有化することでメンバー懇談会や日常会話を中心に集めた利用者からの意向や要望を具体的にプログラムへ反映できるよう取り組む。	利用者の意向等を反映させたプログラムを行うことで革工芸の活動のほか、近隣の神社までの散歩や歩行訓練などにより活動性を高めたり、プランターを活用してのお花などの手入れなど穏やかな生活が送れるような取り組みも取り入れ、利用者のペースに合わせ様々な活動に参加できる機会を提供出来ている。		

※この様式は、「小平市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。